

## 1月のことば

### 学び② ～真似る（その2）「微細運動あそび」

お正月には、<sup>たこあ</sup>凧揚げ・<sup>まわ</sup>こま回し・<sup>すごろく</sup>双六・お手玉・かるた等の遊びが思い浮かびます。

これらを上手に楽しむ為には、幾度か失敗を繰り返し、微妙な力加減や、わずかな違いを知り、その手順等見て真似る必要があります。

これら昔の日本の子ども達がしていた幼少期の<sup>びさいうんどう</sup>微細運動あそびは、人の動きや物の形状を見て真似る能力が養われます。

「まねぶ（まなぶ）ことが日本の強さである。」ということは、歴史を<sup>ひもと</sup>紐解くと<sup>いちもく</sup>一目瞭然<sup>りょうぜん</sup>。例えば…

#### 1、戦国時代末期

スペイン・ポルトガルは大航海・冒険と称し、銃を持たぬ有色人種の国を次々と征服。しかし、日本は流れ着いた鉄砲を見て真似て造る。更に大量生産の方法や戦術を工夫。わずか30数年後、信長や秀吉の軍隊は世界最強となり、日本侵略は断念される。

#### 2、江戸時代

西洋より日本や中国に“時計”が届く。中国は王宮に“時計の部屋”を作るも自ら造ろうとせず。しかし、日本はすぐ分解して「和時計」を造り、逆に価値を生み出す。

#### 3、幕末～明治

近代化した欧米列強国が帝国主義に突入。東洋まで<sup>しょくしゅ</sup>触手を伸ばし次々と植民地化。残った日本は、黒船に<sup>きょうがく</sup>驚愕。しかし見ただけで蒸気の構造を理解し、独自の軍艦を造る。明治38年5月27日、世界最強国のロシアに海軍力（つまり工業力）で完全勝利し、世界の一等国と認められる。

日本は幾度の窮地に立たされても、微妙なニュアンスや方法を真似る力（つまり学ぶ力）を全国民が持っていたからこそ、逆境を好機に変える事ができたのです。

そしてそれは、幼少期のあそび、生活での微細運動により育まれてきました。

<sup>しか</sup>然るに今、TV・ゲーム・スマートホン・キャラクター・刺激・ファストフードは、この能力の育みを<sup>はば</sup>阻むものです。

正月に心を正して世を<sup>みす</sup>見据える。